

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02862

研究課題名（和文）日本語教師の内省過程に関する研究 - 研修における授業データ活用の可能性を探る -

研究課題名（英文）Reflective processes of Japanese language teachers

研究代表者

金田 智子（Kaneda, Tomoko）

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：50304457

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：現職日本語教師を対象とした研修の方法を提案するために、授業分析結果を基にした漫画教材（授業のシーンを漫画化し、タスクを付したものを）を研修で用いることにより、どういった意識変容が起こるのか、さらには、いかなる問いかけや活動が変容に影響をもたらすのかについて検討した。具体的には、地域日本語教室指導者等を対象に研修を複数地域で実施し、研修中のやりとりを撮影・文字化したものについて FOCUS等の授業分析手法・観点をを用いて分析した。併せて、研修の一環として行った活動シートも分析対象とした。漫画教材の使用及びゆさぶりをかける発問などにより、授業活動について多面的に考えられるようになる可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究における教育実践で用いた『研修用マンガ教材 日本語教室をのぞいてみると』は、本研究の前段階に相当する研究の成果として作成したものである。ディスカッションのポイントとなるシーンを漫画として描き、それに対するタスクと簡単な解説を含めた教材とすることにより、現職教師を対象とする研修がより生産的なものとなると考えた。実践・分析を重ね、教材の普及を図ったことにより、教材のよりよい使い方（問いかけの仕方等）が明らかになると同時に、海外の日本語教師の養成・研修に関わる専門家がこの教材を応用した動画を作成し研修に用いるといった動きも生まれ、現職教師向けの研修のあり方に少しずつ影響を与えている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to propose a training method for in-service Japanese language teachers. We examined what kind of consciousness change would occur by using teaching materials, which contain Manga cartoons of class scenes and tasks based on the results of classroom analysis. In addition, we examined what kind of questions and activities would affect consciousness change. Training programs were conducted in multiple regions for instructors of local Japanese language classes, and the exchanges during the training were videotaped and transcribed. The data was analyzed using classroom analysis methods and viewpoints such as FOCUS. The work sheets used as part of the training program were also analyzed. It was found that the use of the training material using Manga and questions, which facilitate participants to reconsider their ideas, can help Japanese teachers think about class activities from multiple perspectives.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教師 教師教育 研修 漫画を用いた教材 内省 授業分析 多面的な見方 意識変容

1. 研究開始当初の背景

(1) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の改善の必要性

本研究の前段階に相当する研究(基盤研究(B)課題番号:24320098)により、在住外国人に対する「生活のための日本語」の授業における複数の問題点(発話における量的・質的不均衡、場当たりのフィードバック、日本人性の強調、等)が浮き彫りとなった。これらの問題点は、民間日本語学校を始めとする一般的な日本語教育機関で教える日本語教師、あるいは広く言語教師一般が抱える課題と共通するものである可能性が高い。さらに、主にボランティアとして活躍する指導者を対象とした研修を通じ、授業の実態を捉えた映像データ・文字化データやその分析結果をそのままの形で用いた場合、その効果に限界があることも明らかとなった。たとえば以下のような問題点があった。

実際の映像データには様々な情報が含まれており、問題の焦点化が困難
映像や文字化データに現れた問題を自身の問題として捉えることが困難
問題点に関する検討結果を自身の実践に結び付けることが困難
「研究の分析結果」を自身の実践に関連付けて検討することが困難

これらの問題のうち については、実際のデータや研究の成果に基づきつつも、研修参加者にとって「受け入れやすい教材」に作り直すことによって解決するのではないかと考えた。「受け入れやすい」とは、問題の焦点化がしやすく、自身の授業との関連付けが容易であり、改善に向けての代替案が創造しやすい、ということである。その具体化として、問題を焦点化した漫画教材を作成した。また、 については、その「教材」を用いて、いかに内省を促し、思考を深めるか、ということ意識した研修のあり方を考える必要があると考えた。他者の実践や研究成果を自分とは関係のないことと捉えるような表面的理解や模範的解釈・提案、に留まることのない、自身の言語教育観や思考形式に対する気づきや実践に対する熟考が導かれるような研修方法の検討が求められると考えた。

(2) 日本語教師の成長を促す研修方法の開発を目指して

本研究の代表者はこれまで、教師の成長過程に関する研究を行い、また分担者である文野らとともに、授業実践や自身のピリーフを振り返り自己成長を促すための授業分析や研修手法について研究を重ねてきた。また、これまでの20数年の間に、日本語教師に関する研究は、ピリーフ、実践的知識、母語話者教師・非母語話者教師、実習生、教師教育の方法、等をテーマに多くの研究者によって進められている。しかし、これらを概観すると、これまでの研究では教師のピリーフや内省について、実態を静的に探るものがほとんどであり、研修による変化や内省の深まりを動的に捉えるものにはなっていない。また、学校教育における教師に関し、佐藤学他(1991)が行ったような「実践的思考様式」(「実践的知識」を基礎としていとなまれる教師の実践的な状況への関与と問題の発見、表象、解決の思考の様式)を探る研究、さらには、他者の実践を観察・分析したり、追体験するといった研修方法が「実践的思考様式」にどのような影響を与えるかを探る研究はない。

これまで、自己研修型教師の育成、自己点検の重要性が語られる際、自身の授業を見直すことが中心として考えられ、他者の実践を通じて自身の実践を振り返るといった方法は重視されなかった。しかし、多くの日本語教師や日本語指導者にとって、自身の授業を記録・分析することは、その方法自体を学んでいない場合がほとんどであるだけでなく、大きな負担となる。他者の実践を通じて思考を深める経験、自己の実践を振り返る経験ができないかを探ることは、今後の研修のあり方、自己研修のあり方を検討・改善することにつながると考えた。

2. 研究の目的

日本語教師の継続的かつ自律的な成長を目指した養成・研修方法を開発することを最終的な目標と定め、本研究においては、「研修方法の案」を提示するべく、以下の2つを行う。

(1) 「生活のための日本語」(就労・結婚等を契機に来日した人々が、日本社会で生活する上で必要となる日本語)の授業データ及びその分析結果をもとにした研修用教材を作成・改善し、それをを用いた教師研修の効果を検証する。併せて、研修時の問いかけや教材内の課題について、改善を行う。

(2) 研修参加者である日本語教師に対し、内省機会を研修内外で持ち、授業データに基づく教材を用いた研修が自身の実践に関する思考過程にどのような影響を与えるかを分析し、他者の授業データに基づく漫画教材を研修で用いることの可能性と課題を探る。

3. 研究の方法

(1) 授業データやその分析結果等に基づく教材を作成・試用・改良し、その結果について、研修実施の過程で現れた各種データ(撮影・録音データ、文字化データ)に基づく分析を行う。

- (2) 研修参加者の実践的思考様式がどのように変化したかを知るために、研究協力を希望・承諾した参加者の研修内記録及び研修後のインタビュー記録を分析する。
- (3) 上記の結果を踏まえ、教材及び研修と実践的思考様式の関係性を分析し、研修プログラム案を提示する。

4. 研究成果

地域日本語教育指導者、日本語学校教師等を対象とした現職者研修を全 12 回行い、許諾が得られた場合はビデオカメラによる撮影あるいは IC レコーダーによる録音を行った。併せて、研修活動で用いた活動シートの記述も、許諾を得られた場合に限り、データとした。具体的には、研修前後の意識の変化がわかる活動シート（PAC 分析の手法を応用したもの）である。さらに、研修参加者のうち 5 名については事後インタビューを行い、研修内容・方法・意識について振り返ってもらい、その記録もデータとした。

研修の文字化データについては、複数の授業分析方法や観点（FOCUS、DQ/RQ 等）により分析を行った。研究期間内に全ての分析を完了することができず、結果として、研修プログラム案を提示するには至らなかったが、これまでに分析した研修データからは以下の課題と可能性が明らかとなっている。

- (1) 教材に付したタスク（漫画に描かれたシーンについての質問等）が参加者に与える影響はそれほど大きくなく、一方向的な考え方が産出されるにとどまり、それについて他者とやりとりをしても、考え方の違いに対する気づきや理解に至らない場合が少なくない。
- (2) 参加者の過半数は、教材内の漫画に登場する学習者・教師の役割を演じることにより、そこに描かれている授業の 1 シーンに対する見方・捉え方が大きく変わった。「演じる」以前の、セリフの「音読」だけでも、考えが変わる場合、自分自身のビリーフに気付く場合がある。
- (3) 漫画の解説に対し、疑問を呈するような発問が、参加者の内省を深めることがある。

また、本漫画教材を、海外も含め複数地域で活用した結果、海外において日本語教師の育成・研修に関わる専門家の方々が、本教材を音声付の動画に編集し、研修で用いている。紙媒体の教材が、音声付の動画となったことにより、どのような効果をもたらすのか、何を可能にするのか、今後の研究の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 金田智子	4. 巻 9
2. 論文標題 「手書き」についての迷い	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語教育実践イマ×ココ	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美洋	4. 巻 40(2)
2. 論文標題 「日本語の国際化」は何を目指そうとするのか 「国語に関する世論調査」に見られる理念の欠如	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 104-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 文野峯子	4. 巻 39-2
2. 論文標題 「日本語」授業における教師のコミュニケーションの課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 144-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森篤嗣	4. 巻 39-2
2. 論文標題 「国語」授業における教師のコミュニケーションの課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 154-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤学	4. 巻 162
2. 論文標題 レジヨ・エミリアの教育とピーター・モス教授から学ぶ教育学の新しい物語り	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤学	4. 巻 135集1737号
2. 論文標題 教育と教育の空間の対応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 建築雑誌	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤学	4. 巻 622
2. 論文標題 教員養成と大学 危機と改革	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤学	4. 巻 125
2. 論文標題 日本から世界に広がる「学びの共同体」 - 小中高の学校改革から社会全体へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 CEL	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金田智子（朱桂栄訳）	4. 巻 204
2. 論文標題 日本日語教師教育的現状と課題（日本における日本語教師教育の現状と課題）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日語学習と研究	6. 最初と最後の頁 55-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 金田智子	4. 巻 22-2
2. 論文標題 書評「松岡洋子・足立祐子編『アジア・欧州の移民をめぐる言語政策 ことばができればすべては解決するか?』ココ出版, 2018」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 87-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美 洋, 岡本能里子, 文野峯子, 森本郁代, 柳田直美	4. 巻 17
2. 論文標題 「演じること」による教師の変容の可能性 - フォーラム・シアターに参加した日本語教育支援者の語りから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語文化教育研究	6. 最初と最後の頁 383 - 403
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美 洋	4. 巻 26
2. 論文標題 日本語教育人材の「資質・能力」育成に関わる諸概念を再考する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語・情報・テキスト	6. 最初と最後の頁 13 - 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森篤嗣	4. 巻 -
2. 論文標題 日本語学・日本語教育学におけるエビデンス重視の調査研究事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全国大学国語教育学会（編）『国語教育における調査研究』	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森篤嗣	4. 巻 6
2. 論文標題 日本語能力の評価と測定：作文におけるパフォーマンス評価と質的評価・量的評価を例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語プロフィシェンシー研究学会『日本語プロフィシェンシー研究』	6. 最初と最後の頁 31-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森篤嗣	4. 巻 96
2. 論文標題 国語科が外国語科から学べることは何か？（連載：国語科と外国語のよりよい関係6）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小学校 国語教育相談室	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森篤嗣	4. 巻 95
2. 論文標題 「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」（連載：国語と外国語のよりよい関係5）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小学校 国語教育相談室	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森篤嗣	4. 巻 18
2. 論文標題 「言葉による見方・考え方」と認知能力：対象の捉え方は言葉にどのように反映されているのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語授業の改革18 国語の授業で「深い学び」をどう実現していくのか：「言葉による見方・考え方」の解明と教材研究の深化	6. 最初と最後の頁 161-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森篤嗣	4. 巻 -
2. 論文標題 量的分析に基づくファシリテーターの特性推定	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 村田和代（編）『シリーズ話し合い学をつくる2 話し合い研究の多様性を考える』	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美洋	4. 巻 -
2. 論文標題 母語話者にとっての やさしい日本語 は学ぶに値するものか：「生涯教育」という視点からの再考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 庵功雄・岩田一成・佐藤琢三・柳田直美（編）『 やさしい日本語 と多文化共生』（ココ出版）	6. 最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田一成	4. 巻 63号
2. 論文標題 第109回大会 研究フォーラム報告 災害時の「やさしい日本語」を使うために日ごろから気を付けること	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文体論研究	6. 最初と最後の頁 85-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 打浪文子・岩田一成・熊野正・後藤功雄・田中英輝・大塚裕子	4. 巻 20巻1号
2. 論文標題 知的障害者向け「わかりやすい」情報提供と 外国人向け「やさしい日本語」の相違 「ステージ」と「NEWSWEB EASY」の語彙に着目した比較分析から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 29-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美洋	4. 巻 24
2. 論文標題 規範を評価の対象としてとらえる 「価値観の問い直し」を支える哲学的考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語・情報・テキスト (東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻)	6. 最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美洋・柳田直美	4. 巻 0
2. 論文標題 「参加型授業」に対する抵抗感はどこから来るのか：学習観の多様性に向き合うための事例研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 カナダ日本語教育振興会2017年度大会プロシーディングス	6. 最初と最後の頁 262-271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金田智子	4. 巻 5
2. 論文標題 マンガを用いて日本語教育の在り方を考える - 『研修用マンガ教材 日本語教室をのぞいてみると』を使った研修	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語教育実践イマ×ココ	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三枝令子・庵功雄・岩田一成・今村和宏	4. 巻 12号
2. 論文標題 外国人にとってわかりやすい標識表記を考える 留学生へのアンケート調査の結果を踏まえて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文・自然研究	6. 最初と最後の頁 115-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金田智子・市瀬智紀・河野俊之	4. 巻 0
2. 論文標題 調査1「外国人児童生徒等教育担当教員の養成・研修に関する調査」(質問紙調査)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成29年度文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」報告書	6. 最初と最後の頁 17-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計64件(うち招待講演 27件/うち国際学会 22件)

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 「豊島区における日本語学習環境と情報交流に関する実態調査」について: 経緯・実施・活用
3. 学会等名 東京都つながり創生財団主催「第2回地域日本語教育の体制づくりに関するパネルディスカッション」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 「生活のための日本語」これまでとこれから
3. 学会等名 2022年度山口県立大学基盤教育FD・国際文化学科主催・日本語教育関連講演会(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 パネルディスカッション「海外の外国人材向け日本語教育支援から、国内の日本語教育への活用について考える」、発題「『地域日本語教育』に対するインパクト人材の育成という視点から -」
3. 学会等名 国際交流基金関西国際センター25周年記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤学
2. 発表標題 疫情下の關照共同體與學習革新
3. 学会等名 台南大学招待講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Manabu Sato
2. 発表標題 Reforming Schools in Post COVID-19 Society Leadership of Principals for Re-Innovating Learning Community.
3. 学会等名 Principals Forum, Thailand（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Manabu Sato
2. 発表標題 Teacher Education Re-Innovating Professional Learning Community: Beyond Evidence-Based Education.
3. 学会等名 CTER International Conference of Evidence-Based Teacher Education and Lesson Study. Center of Teacher Education Research, Beijing Normal University.（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Manabu Sato
2. 発表標題 Learning recovery and innovation for future education: Design and practice of School as Learning Community
3. 学会等名 The 10th International Conference of School as Learning Communities, The University of Tokyo. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口昌也, 北村雅則, 森 篤嗣, 柳田直美
2. 発表標題 協同型作文教育支援システムの設計
3. 学会等名 日本教育工学会2023年春季全国大会 (於: 東京学芸大学)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口昌也, 北村雅則, 森篤嗣, 柳田直美
2. 発表標題 多段階の振り返りを考慮した教育活動データの共有手法の開発
3. 学会等名 日本教育工学会2022年秋季全国大会 (於: オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森篤嗣
2. 発表標題 ボランティアができること、やるべきこと
3. 学会等名 群馬県立女子大学 令和4年地域日本語教育講演会 (於: 群馬県生涯学習センター) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山口昌也, 森篤嗣
2. 発表標題 日本語教師養成のための音読観察実習における多段階の振り返りを考慮したビデオアノテーション共有手法
3. 学会等名 言語資源ワークショップ2022 (於: オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森篤嗣
2. 発表標題 国語教育と日本語教育との 漢字指導の接点を探る
3. 学会等名 Beyond Kanji Teaching: Culture, Values, and Issues in Kanji writing (online) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇佐美洋、文野峯子
2. 発表標題 「気づき」の質を問うためのケーススタディー「内への深化」「外への拡張」を目指して
3. 学会等名 言語文化教育研究学会 第9回年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 どうする? 異文化コミュニケーション: 日本語教室をのぞいてみると 見えること、気づくこと
3. 学会等名 四日市市日本語ボランティア研修 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 授業を振り返る 授業分析の手法・観点を生かしてー
3. 学会等名 名古屋市 4 校合同勉強会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 実践における「評価」を考える
3. 学会等名 地域日本語教室での対話的な日本語活動につなげるための基礎日本語教育実践研究事業：基礎日本語教育実践研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 言語教育における「態度」概念を構造化する
3. 学会等名 第30回小出記念日本語教育研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 USAMI Yo
2. 発表標題 Systemising attitude constructs and examining their trainability in language education (「態度」概念の再構成：言語教育において「態度」は扱い得るか?)
3. 学会等名 Japanese Studies Association of Australia Conference 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金田智子・菅原雅枝・仲本康一郎・鎌田美千子
2. 発表標題 教師教育の課題と可能性 - 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成と研修に焦点を当てて - (パネルセッション)
3. 学会等名 2020年度日本語教育学会春季大会 (2020.5.30) 予稿集pp.38-47
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金田智子・河野俊之・中山あおい・市瀬智紀
2. 発表標題 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成に関する調査結果から見られる課題と取り組み
3. 学会等名 2020年度異文化間教育学会第41回大会 (2020.6.13) 抄録pp.154-155
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 地域日本語教育の可能性 - 普遍的な課題に地域性をもって取り組む -
3. 学会等名 兵庫県地域日本語教育シンポジウム (2020.8.26) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浜田麻里、金田智子、市瀬智紀、河野俊之、齋藤ひろみ
2. 発表標題 外国人児童生徒等教育を教員養成に位置づける - 文部科学省委託全国調査の結果から -
3. 学会等名 日本教師教育学会第30回研究大会 (2020.9.13)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sato, Manabu
2. 発表標題 Inquiry and Collaboration in Innovative Schools: Design and Reflection of Teachers
3. 学会等名 Chinese Society of Education, 51st Annual Meeting by On-Line, Shanghai, China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sato, Manabu
2. 発表標題 Re-innovating Learning of Inquiry and Collaboration: Toward High Quality and Equitable Education
3. 学会等名 The 11th International Conference of Lesson Study and the 1st International Conference on Learning Improvement, Virtual meeting, Indonesia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sato, Manabu
2. 発表標題 School as Learning Communities in with COVID-19 and Post Corona Society: Hope for the Future through Collaborative Inquiry
3. 学会等名 第8回学びの共同体国際会議 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sato, Manabu
2. 発表標題 Inquiry with Collaboration in School as Learning Community: Why Re-innovation of Learning and Equitable Education are the Keystones for the Post Corona Society?
3. 学会等名 第8回学びの共同体国際会議 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 言語教育における「技能」「態度」の意味を再考する
3. 学会等名 一橋日本語教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 足立祐子・松岡洋子・林さと子・富谷玲子・宇佐美洋・安場淳・今村和宏
2. 発表標題 日本語教師の「熟達過程」について考える 教室活動における「問題解決能力」という視点から
3. 学会等名 2020年度日本語教育学会秋季大会（オンライン開催）予稿集pp.121-125
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 「日本語教育人材に必要な資質・能力」の内容は示されたか？：全体像をとらえるための別解
3. 学会等名 言語文化教育研究学会第7回年次大会（オンライン開催）予稿集pp.112 - 117
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 日本語教師の資質・能力 - PAC分析による探求 -
3. 学会等名 第23回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（於セルビア・ベオグラード）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 教師の養成・研修に関する社会的動向と今後の可能性 - 日本語教師養成に関して -
3. 学会等名 公益社団法人日本語教育学会文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」シンポジウム 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sato, Manabu
2. 発表標題 Lesson Study as A Case of School as Learning Community: Variations of Policy and Practice in Japan and Asian Countries. , Symposium, Tokyo, August 6, 2019.
3. 学会等名 World Education Research Association 10th Focal Meeting, Tokyo. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sato, Manabu
2. 発表標題 Issues and Possibilities of Liberal Arts Education: Problem Setting.
3. 学会等名 World Education Research Association 10th Focal Meeting, Tokyo. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sato, Manabu
2. 発表標題 Lesson Study in Schools as Learning Community; Policy and Practice in Asia, Keynote Speech of Expert Seminar.
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies, Amsterdam, Netherlands. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sato, Manabu
2. 発表標題 Inquiry and Collaboration in School as Learning Community: At Both of Classrooms and Staff Room, Keynote Speech.
3. 学会等名 EDUCA 2019, The 7th International Conference of School as Learning Community, Bangkok, Thailand. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sato, Manabu
2. 発表標題 Inquiry and Collaboration in Learning Community: Theory and Practice, Invited Keynote Speech.
3. 学会等名 The 10th International Conference of Indonesian Association of Lesson Study, National Padang University, Indonesia, November 7, 2019. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤学
2. 発表標題 発題：人文社会科学教育の内容と方法のイノベーションー国際比較
3. 学会等名 公開シンポジウム「人文社会科学教育の内容と方法のイノベーション 国際比較」, 学習院大学 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口昌也, 柳田直美
2. 発表標題 観察支援システムFishWatchr Miniにおけるビデオ参照機能の実現
3. 学会等名 日本教育工学会2019年秋季全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口昌也, 青木さやか, 森 篤嗣
2. 発表標題 ビデオアノテーションシステムFishWatchrを用いた日本語教育授業のふりかえりにおける気づきの共有方法の分析
3. 学会等名 日本教育工学会2020年春季全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森篤嗣
2. 発表標題 新学習指導要領に見る「言葉の働き」と国英連携
3. 学会等名 公開シンポジウム「英語教育と国語教育の連携の観点から考える小学校英語」(於: 京都外国語大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森篤嗣
2. 発表標題 教室でのコミュニケーションー話し方・説明の仕方ー
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会第4回ワークショップ(於: 広島市立基町小学校)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森篤嗣
2. 発表標題 小学校教師のコミュニケーションスキル: 授業における話し方・説明の仕方
3. 学会等名 西日本私立小学校連合会教員研修会(於: 香里ヌベール学院小学校)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立祐子, 松岡洋子, 林さと子, 宇佐美洋, 安場淳, 富谷玲子, 今村和宏
2. 発表標題 これからの地域日本語教育人材を問う? 「日本語学習支援者」と「日本語教師」は別物なのか??
3. 学会等名 日本語教育学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 日本語教師に求められる資質・能力 - 日本の動向と今後の課題 -
3. 学会等名 第6回全国大学日本語教師研修大会 (於 中国安徽省合肥) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 日本語教師の研修における『我が事』感の喚起 - 研修用マンガ教材の可能性 - (パネル: 日本語教師の成長を促す「方法」について考える - 3つのアプローチから -)
3. 学会等名 ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 実践のアイデア・リソース: マンガを用いて日本語教育の在り方を考える - 『研修用マンガ教材 日本語教室をのぞいてみると』を使った研修
3. 学会等名 言語教育実践イマ×ココ フォーラム2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KANEDA, Tomoko
2. 発表標題 "Manga" usage for teacher development programs
3. 学会等名 Asian Linguistics Seminar, Oriental Institute, University of Oxford
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口昌也, 森篤嗣
2. 発表標題 教育活動に対するリアルタイムアノテーションの特徴と振り返りに おける効果分析 - 小学校におけるプレゼンテーション発表会を例にして -
3. 学会等名 第43回社会言語科学会研究大会（筑波大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浜田麻里・金田智子・宇佐美洋・齋藤ひろみ
2. 発表標題 日本語教師の成長を促す「方法」について考える - 3つのアプローチから -
3. 学会等名 ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 「日本人の評価」は学習の規範となり得るか 母語話者の価値観の多様性に着目する
3. 学会等名 ハノイ大学第3回国際シンポジウム「グローバル化時代における日本語教育と日本研究」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 協働のプロセスの中から発見する自分：大学における、「自ら考える力」を育成する授業実践から
3. 学会等名 東洋大学経営学部FD研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美洋, 森本郁代, 岡本能里子, 柳田直美, 文野峯子
2. 発表標題 パネル「演じること」への参加はどのような学びをもたらすかー「フォーラム・シアター」参加者の語りからー
3. 学会等名 言語文化研究学会第5回年次大会（早稲田大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村香苗, 宇佐美洋, 嶋津百代
2. 発表標題 参加者にとって「よい話し合い」とは？：話し合いにおける「参加感」と「参加行為」の関係
3. 学会等名 第43回社会言語科学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立祐子・松岡洋子・安場淳・西口光一・宇佐美洋
2. 発表標題 「生活者としての外国人」への言語教育に携わる人材とはどうあるべきか その人物像・育成方法について再考する
3. 学会等名 2018年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩田一成
2. 発表標題 鉄道の案内サインを考える 北欧4か国の首都駅と東京
3. 学会等名 第40回社会言語科学会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 打浪文子, 岩田一成
2. 発表標題 リライトによって情報はどのように圧縮されるのか NHKニュースからNHKNEWSWEB EASY / ステージへ
3. 学会等名 第40回社会言語科学会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口昌也, 柳田直美, 北村雅則, 森 篤嗣
2. 発表標題 学習者用モバイル観察支援ツール FishWatchr Miniにおける振り返り支援機能の開発
3. 学会等名 日本教育工学会第33回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金田智子, 森篤嗣, 岩田一成, 文野峯子
2. 発表標題 漫画を使った研修の可能性 日本語教室の撮影データに基づく教材の活用 (交流ひろば)
3. 学会等名 2017年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宇佐美洋・柳田直美
2. 発表標題 「参加型授業」に対する抵抗感はどこから来るのか：学習観の多様性に向き合うための事例研究
3. 学会等名 カナダ日本語教育振興会2017年年次大会 ?? (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 「測定される能力」から「解釈される能力」へ
3. 学会等名 異文化間における日本研究・日本語教育研究に関する国際シンポジウム ??
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 生涯学習としての やさしい日本語
3. 学会等名 「やさしい日本語 と多文化共生」シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 濱田麻里, 金田智子, 齋藤ひろみ, 宇佐美洋
2. 発表標題 日本語教師の成長を促す「方法」について考える - 3つのアプローチから -
3. 学会等名 2018年日本語教育国際研究大会 (ヴェネツィア) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 日本語教育人材に求められる資質・能力とは - 国内動向と海外事情を踏まえて -
3. 学会等名 大阪府教育庁主催「地域で活動する識字・日本語教室の支援力強化事業」識字・日本語学習シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金田智子
2. 発表標題 これからの日本語教育における人材像 - 養成の現場と活躍の現場の両面から考える専門性 -
3. 学会等名 文化庁平成29年度日本語教育大会東京大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 異文化間教育学会（項目執筆「第二言語としての日本語教育」「日本語教師」：金田智子）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 異文化間教育事典	

1. 著者名 佐藤学	4. 発行年 2022年
2. 出版社 親子天下（台湾）	5. 総ページ数 206
3. 書名 學習的革命2.0 - AI與疫情如何改变教育的未来 -	

1. 著者名 金田智子・唐木澤みどり編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 豊島区・学習院大学国際センター	5. 総ページ数 45
3. 書名 豊島区における日本語学習環境と情報交流に関する実態調査（2020年度実施）報告書	

1. 著者名 国立国語研究所編（項目執筆：金田、宇佐美）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 幻冬舎	5. 総ページ数 264
3. 書名 日本語の大疑問	

1. 著者名 佐藤学	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北京師範大学出版会	5. 総ページ数 80
3. 書名 学校改革：学習共同体構想与实践	

1. 著者名 北村友人・佐藤真久・佐藤学編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 304
3. 書名 SDGs時代の教育 すべての人に質の高い学びの機会を	

1. 著者名 岩田一成	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 258
3. 書名 第5章「日本語を教えるための文法」, 遠藤織枝編『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』	

1. 著者名 金田智子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 258
3. 書名 第9章「カリキュラム・デザイン」, 遠藤織枝編『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』	

1. 著者名 岩田一成	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 19
3. 書名 「文法項目の使用実態とその問題点 外国人にも読みやすい日本語は?」, 石黒圭編『ビジネス文書の応用言語学的研究?クラウドソーシングを用いたビジネス日本語の多角的分析』	

1. 著者名 森 篤嗣編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 超基礎・日本語教育	

1. 著者名 森 篤嗣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 11
3. 書名 「外国人のための「やさしい日本語」における言葉の基準」, 田中牧郎(編) 『現代の語彙 男女平等の時代』 飛田良文・佐藤武義(編集代表)シリーズ 日本語の語彙 7	

1. 著者名 森篤嗣(編著) 森篤嗣・田中祐輔・中俣尚己・奥野由紀子・建石始・岩田一成(著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 150
3. 書名 『日本語教育への応用(コーパスで学ぶ日本語学)』	

1. 著者名 庵功雄・岩田一成・佐藤琢三・柳田直美(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ココ出版	5. 総ページ数 400
3. 書名 やさしい日本語 と多文化共生	

1. 著者名 本田弘之・岩田一成・倉林秀男	4. 発行年 2017年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 204
3. 書名 街の公共サインを点検する	

1. 著者名 岩田一成編著・和泉智恵・奥村玲子・高木祐輔・福本亜希・間瀬尹久著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アスク出版	5. 総ページ数 119
3. 書名 にほんご宝箱 日本で生活する外国人のためのいろんな書類の書き方	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>探究しよう「日本語教室」 https://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20100010/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	文野 峯子 (Bunno Mineko) (10310608)	人間環境大学・その他部局等・名誉教授 (33936)	
研究分担者	山口 昌也 (Yamaguchi Masaya) (30302920)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・音声言語研究領域・准教授 (62618)	
研究分担者	森 篤嗣 (Mori Atsushi) (30407209)	京都外国語大学・外国語学部・教授 (34302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 学 (Sato Manabu) (70135424)	学習院大学・文学部・客員所員 (32606)	
研究分担者	岩田 一成 (Iwata Kazunari) (70509067)	聖心女子大学・現代教養学部・教授 (32631)	
研究分担者	中上 亜樹 (Nakaue Aki) (90581322)	学習院大学・文学部・准教授 (32606)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	宇佐美 洋 (Usami Yo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関